

～ 8050かごしまネットワーク(仮称)設立準備イベント ～
「8050問題を考える鹿児島県民の集い」

8050かごしまネットワーク(仮称)設立に向けて

多分野にわたる相談者の課題に寄り添うため、立場や専門の垣根を越え、広範な鹿児島県内の多様な職種の有志がゆるやかにつながる「顔の見える支援ネットワーク」づくりを考えています。定期的な交流会やイベントによる出会いや情報交換を通じて、相談者だけでなく、支援者の孤立も防ぐ、より切れ目のない支援をご一緒に考えていただけませんか。

〔ネットワークへの参画について〕

まずは、鹿児島でのネットワーク設立について、皆さまのご意見を頂戴したいと思います。全国ネットワークの趣旨にご賛同いただいた場合、当日案内いたします。当日の設立前集會にご参加ください。組織運営や今後の活動について検討していきたいと考えております。

〔山田孝明さんのご紹介〕(今回のイベントの趣旨を考慮し、どのような方が伝わりやすいよう新聞記事を抜粋)

* 京都新聞

引きこもりの中高年の人がいる家族の支援に取り組む団体が、全国組織「8050ネットワーク(仮称)」を設立。生活が困窮し社会で孤立する80代の親と50代の子の世帯が象徴的であることから「8050問題」と呼ばれており、「家族だけで困難を抱え込まないよう、地域での支援をさらに広げたい」とする。

親同士が悩みを打ち明け合う交流会などに取り組む「市民の会エスポワール京都」(同市東山区)を主宰する山田孝明さん(66)が働き掛けて活動を始めた名古屋市や福岡県久留米市など計6市の団体が発足する。親子への支援や団体運営についてのノウハウ共有と情報発信、新規の支援拠点立ち上げ支援などを進める。

40～64歳の引きこもりの人は、2018年12月の調査に基づく内閣府の全国推計で61万人とされる。親が高齢で収入に限られ、引きこもりの長期化で社会と接点を持つことに当事者の拒否感が強く、親子関係も悪化する傾向がある。国は就労支援を軸に対策に乗り出したが、当事者にとってハードルは高いという。

山田さんは「現場目線でそれぞれの親子の心情と状況に合った支援策を探る姿勢が欠かせない。社会から孤立している家族は多いはずで、全国組織化で『8050問題』をアピールし、支援活動がない地域を中心に団体設立などを進めたい」と話す。

他、関西MBS放送「NEWS ミント」の動画ニュース【特集】ひきこもる中高年と親の苦悩 容易ではない「8050問題」
<https://www.mbs.jp/mint/news/2019/07/08/070822.shtml>

著書に、「親の『死体』と生きる若者たち」「ひきこもり狩り」「輝ける闇の光の中で」「友よともに未来を生きよう」
「8050問題を考える 笑いと悲しみとともに生きたい」「8050問題を生きる 明日を語る言葉を見つけたい」、共著「ひきこもり狩り」「輝ける闇の光の中で」

参加申込書

お名前(ふりがな)		所属(一般参加の方は、差し支えなければ職業をお書きください)
1		
2		
3		
ご連絡先	ご住所 〒	
	電話番号	

〔申込期限〕令和元年11月5日(火)

〔お申込み方法〕必要事項を記入の上、FAXまたはメールにてお申込みください。

FAX: 0994-37-5639 E-Mail: info@kanoya-ps.com